

緑学年の“おっきな輪”



昨年度末より準備を重ね、新年度に入ってから毎日のように放課後集まって案を練ってきた修学旅行。九州各地で地震が頻発し、市内の数校で延期が発表される中、やや離れているとはいえ不安を抱えた出発でした。また梅雨入り間近とのことで天候の不安もありました。しかしいま帰ってきて思うに、本当に行って良かった。素晴らしい経験ができたということに尽きます。

日程を追って振り返ってみます。

1日目：23日(土)

早朝の集合。ご家庭には大変な負担をおかけしました。前日に風紀と荷物のチェックを済ませていたので、ごく簡単な手続きで出発できました。空港では初めてのフライトに戸惑う生徒が多く、はしゃぐ子もいれば恐怖で顔面蒼白の子もいて、無事に離陸したときには歓声と拍手が起こりました。



那覇空港に降り立った瞬間、我々はここが亜熱帯地域であることを感じ取りました。関西では鉢花として売られているハイビスカスもブーゲンビレアも普通に街路樹として育っています。

最初の訪問地は沖縄戦終焉の地に建てられた平和祈念公園です。その平和の広場で生徒たちは黙祷を捧げ、平和宣言を読み上げ、千羽鶴を奉納してこれからの世界平和実現に向けて気持ちを新たにしました。また、資料館の見学とガンマ体験を通して当時を偲び、戦争末期の人々が置かれた生活状況をわずかでも理解できたのではないかと思います。



その後は読谷村(よみたんそん:日本一人口の多い村だそうです)での民泊体験。生徒たちは各家庭に引き取られていきました。我々教員は民家への訪問を止められており、何をしているかは知っていても、具体的なことは残念ながら分かりません。でも翌日の離村式での別れの様子を見る限り、沖縄の文化にどっぷりつかった貴重な体験をしてくれたようです。



民家で習った三線を披露

ところで当初旅行期間中の天候は3日間とも雨という予報でした。出発が近づくにつれて少しずつ変化しましたが、それにしても3日とも雨に遭わなかったのは奇跡的と言えます。

2 日 目 : 24 日 (日)

我々は毎日30分おきにスマホで天気予報を確認し、雨の場合の対応を考えていました。雨の確率90~100%がずっと続いていたのです。なのにフタを明けてみれば1滴の雨も降らず、予定されていたマリンスポーツを全て体験できました。まるでうちの生徒がいるところだけ晴れていたようであり、雲をサランラップで覆っているかのようでした。

そしていつもながら驚かされるのは、彼らが大変楽しみ上手なところです。時間をもて余すのではないかという危惧は取り越し苦労にすぎませんでした。クラスの輪も学年の輪も大きく広がったように感じられました。



白熱!ビーチフラッグ



ビーチでくつろぐDJメンバー



ドラゴンボートにいざ出発!



バリアフリーが進んでいます

夕食を食べている時外は大雨。雨の方が我々に気をつけてくれています。食後のレクレーション大会は企画、毎日の練習、オーディションと生徒達が力を入れてきたことのひとつです。



「どうるの和食定食」の歌

漫才あり、ダンスあり。衣装や演出も凝りに凝って、みんなを楽しませてくれました。

マリンスポのあとの更衣や移動に手間取り、結果15分遅れの消灯となりました。昼間の疲れもあって、皆すぐに寝付きました。



「ローゼンブルグシンフォニー」のパフォーマンス

3 日 目 : 25 日 (月)

この日は朝から雨。起床後のラジオ体操は室内で行うことに。これが今回唯一の予定変更でした。みんなでバイキングの朝食をとり、慌しく嘉手納基地へと向いました。軍用機の離発着を見ることができたのですが、あのすさまじい騒音の中で生活を強いられる地元住民の苦悩が理解できたと思います。

そのあと首里城見学を皮切りに班別行動がスタートします。1年生時の神戸、2年生時の奈良と経験を積み重ねた実績がものを言って、こちらも安心して見ていられました。最終目的地の那覇空港に着いたときは皆すごく大きなお土産袋を手にしており、この重さで飛行機が離陸できないのではと思うほどでした



出来を問われれば98点。若干気を抜くところが玉にきずでしょうか。十分に学習し、楽しんだ修学旅行でした。

※夜遅くのお迎え、ありがとうございました。ラストの1年、よろしくお願ひします。

